

サルはこのような動物



人が作った野菜はうめえなあ

なんでも食べる

- 人が食べるものは、なんでも食べるが辛いものや、香りやアクの強いものをさける。

冬眠しない

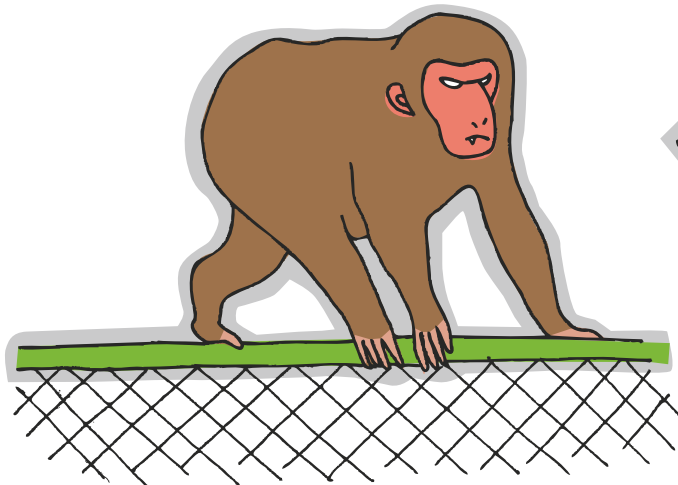
- 食べものを探して移動しながら生活する。

活動時間

- 明るい時間に活動する。
(早朝や夕方に食べ物を求めて活発に移動する)

手足の器用さ

- 人間と同じように物をつかむことができる
両手に加え、足でも物をつかむことができる。



木登りがとくい

- 身軽で、電線や屋根をつたって移動もできる。
- ジャンプ力は2メートル!

群れをつくる

- 母親とメスが子どもを連れて群れをつくり、行動範囲(無雪期)は数キロ~十数キロの範囲にもなる。
- 昼間は見張り役がいて常に周りを警戒している。オスは単独行動。またはオスだけの小さな群れをつくる。

ここに来ればこんなに食べ物がある



学習能力が高い

- 一度おぼえた食べものは忘れない。特においしく感じた食べ物は、手に入れるために何度もしつこく挑戦する。
- 仲間が柵などをうまく抜けたりするのを見て同じ行動をする。ワナなど危ない経験をすると、次からワナを避ける。
- サルにおびえる人を見ると「人間は怖くない」と学習し、威嚇して(おどかして)くることがある。
- 人の服装や車の色や形、持ち物までおぼえてしまう。

サル的一年（おもな食べ物と行動）

春

若い木の葉や木の芽・山菜・田畑の作物・栽培シイタケなどのキノコ

夏

トマト、ピーマン、茄子、ナス、玉米

秋

コクワ・山ブドウ・アケビ など果実類

田畑の作物・ナラヤクリ・カキなど地面に落ちる前の木の果実・木の皮や木の芽・その他

冬

栗、柿、松葉

であいやすい場面や場所

- 農作業、山仕事、山菜採り
- 朝昼晩、農地の近く（年中）
- 果樹や実のなる木の近く

行動の特徴

春
柔らかい新芽や新葉を食べる。

春～秋
人が作る農作物は栄養が多いので、いつでも食べようと狙っています。
クワなど木の果実を食べる。

秋
栄養のある農作物などを積極的にねらって食べる。



積雪期
木の芽や皮など、エサを求めて雪のない時期よりも広い範囲を移動する。
寒さが厳しいと越冬できないサル（子ザルや高齢なサル）が増える。

里のサルと山のサルでは子どもを産む数が違うんだ！

奥山のサル
6～7歳になると子どもが産めるようになる。
1頭のメスは1年おきに1頭の子どもの産む。
子ザル（1年目）の死亡率は50%以上。

里山のサル
4～5歳になると子どもが産めるようになる。
1頭のメスが毎年子どもを産む。
子ザル（1年目）の死亡率は10～20%。

そう、おいしくて栄養豊富な農作物を食べさせないことが重要だね！

出典：羽山伸一「野生動物問題への挑戦」（東京大学出版）

これらの習性は一般的なもので、実際には個体差があり、予想外の行動をすることがあります！

人が作った作物を食べ栄養をつけて繁殖力を増している可能性が高いとも言えます！